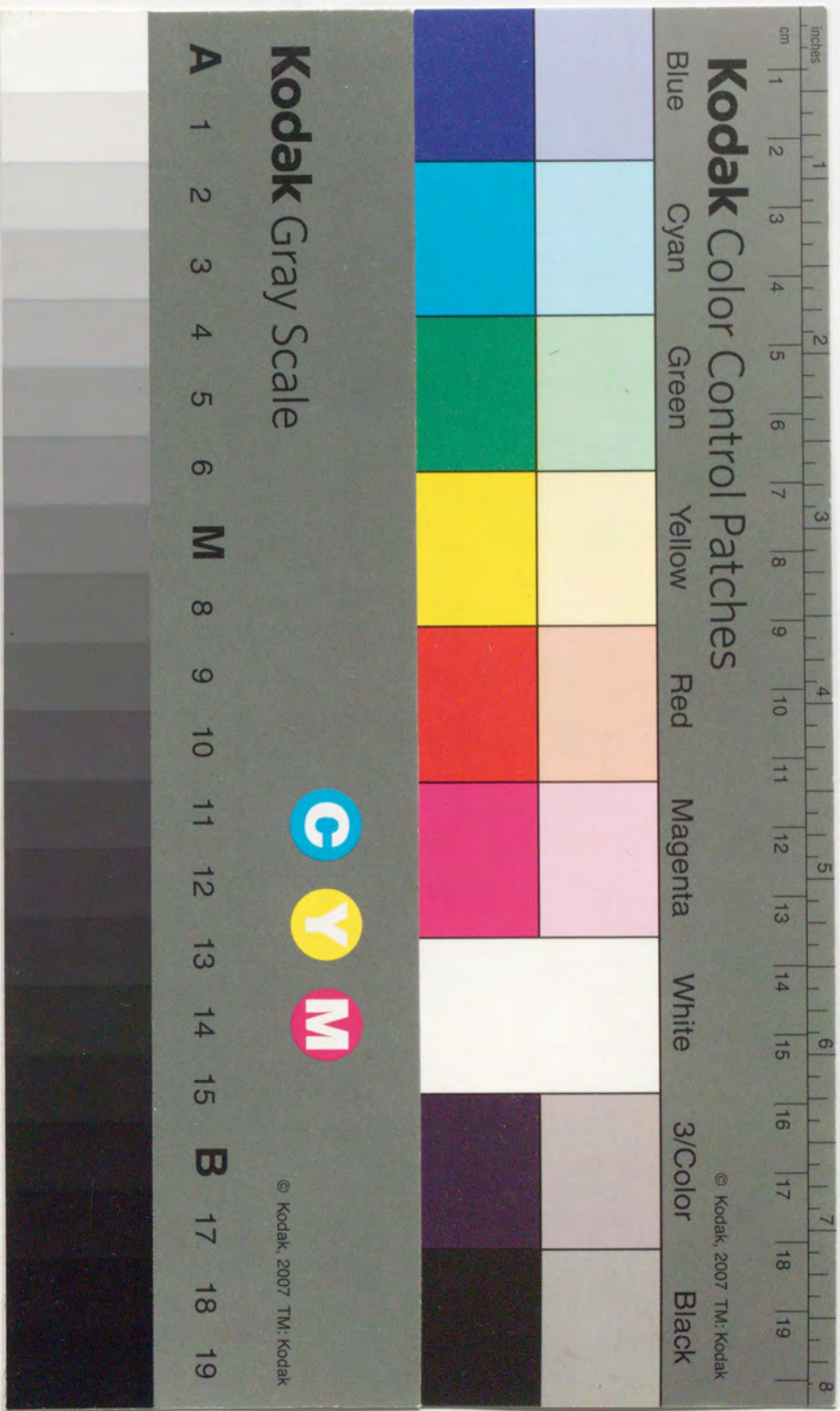




勸汝為人子

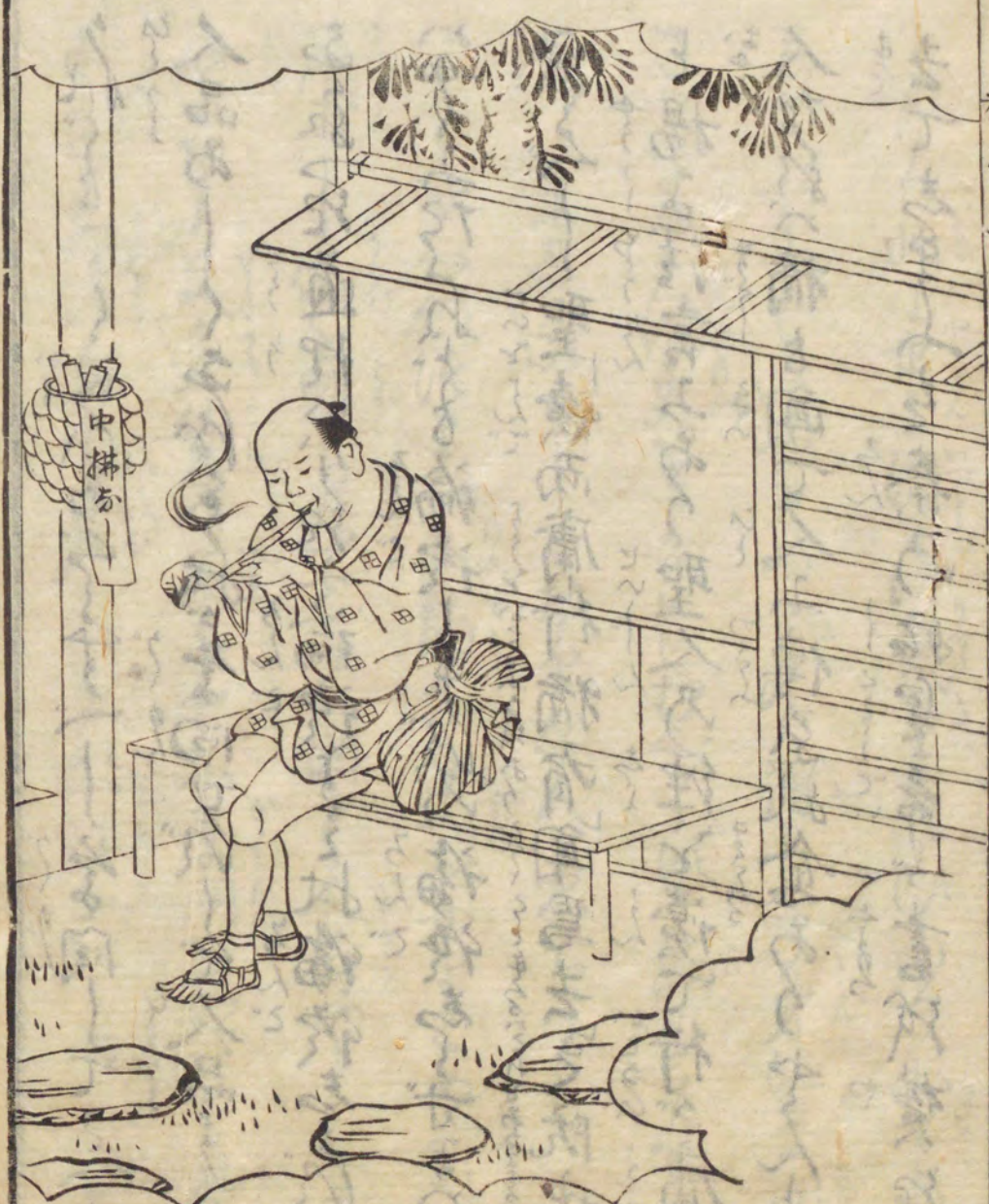
經史曾覽讀

女々々世間の人と汎くさして勸め教
るなり父母孝行の孝同のあはなりやう
だ又長幼ともよくばせむがため事
すめをせむるものこそ孝なりとて
孝同誠せば鬼ふも怖く云ふれ人ふ
たふものハ家業なりとて經史を時讀



となり此一世に遍くに其量ちびあり小也あ
 まてううくいふもの、多く謂ふいふ中に意同
 させるを歴史とよみしむるに意同はれど
 めつこあきなりくかなんた人があらうなり
 こやとわの法事ふ不勸ある父とやをこめ神と
 歳ふ一仏と毀ちちどくし人品わくく
 やなり又多貨り家事やふ意同をかく其
 まるを法とするましくれ一理なりあはれ

くりもよう思ひめぐすべし意同してさ
 人品あくくあふまは意同せど七人品
 あれは道理なりは論議よりこれ論議より
 中ふたれども論議よりこれ論議よりす
 愈々一聖徳而庸行猶有聞焉去之阮也
 と楊子法言あり聖人の往と徳て行が庸
 人が終へ猶も聞て人ふ傳ふれ愈ありやんと
 去てあふんと秦乃始皇帝が書紙焚に



儒或坑と同一くをばを是が論議

中びろ論議をばとふまはるる事

小異見成す所のと經兵あるやうつけて

非をためあはさうやすはてお折と

これなを書を讀みそ同させれと

漸く自れ化をやりて吾に誘くや

つるものなを如何に辨性乃人も聖

賢れ辨ふる人々と自然と愧る意で

みずてはぬけとあふ季同など云

用はるる一とある人乃句ゆ

季同と尻うぬけふ答う那

黄香夏扇枕 冬則温衾褥

むうー黄香といふ人九歳の時母を失ひ

哀切とせうとあり釋父り事はこと

成人乃及ふ所とあは夏天の暑熱と扇

みく枕をあらね己身へ汗をかきて父
の簞にぞ臥凍し冬は則ち己方
て寝具を温めて父を睡せむ其化
孝行に准しとてさへ九歳十歳
の乳臭は兒心よく這般なる誠を盡す
以て至孝の自然とて何んぞ左平次
や成長すふとて吾勵げと孝を盡
孝同と勤若くはし尚書と云る高官

るこれありひはさるる夫遊所廣う
多く見たり國をよみて事おし習
と同一とてやをあるれハ錯く錯
人ハ馬を飼ふ故あ人もさるる
ひふ所以とてもひふと千里の
二三十年おれとて今人なり
かゝるおれとて歴史あり壁に
るたゞおれとて何となく老人ハ老人

ろくろあるも弱冠此後解なるに愈々
そのまを問ひそれ準繩乃つゆと
いふれ之を問ふよりふさふれ
もろをまはとつれ一々其所
よりくをくゆき忽緒ふを金
かに其ゆつに理窟をふま問他乃
みてまをすれ問人よりゆきゆき
まふま問或は耳四寸れまふま耳

み進くくやうや

王祥卧寒冰

王祥ハ洛陽乃王融といふ人のふく朱
氏といふ後母よりきて孝りを盡せ
人ふ其朱氏の前ふて悪むまふ
さ小げくくさく王祥ハ孝
行乃ゆきくふる後母のまふまふ

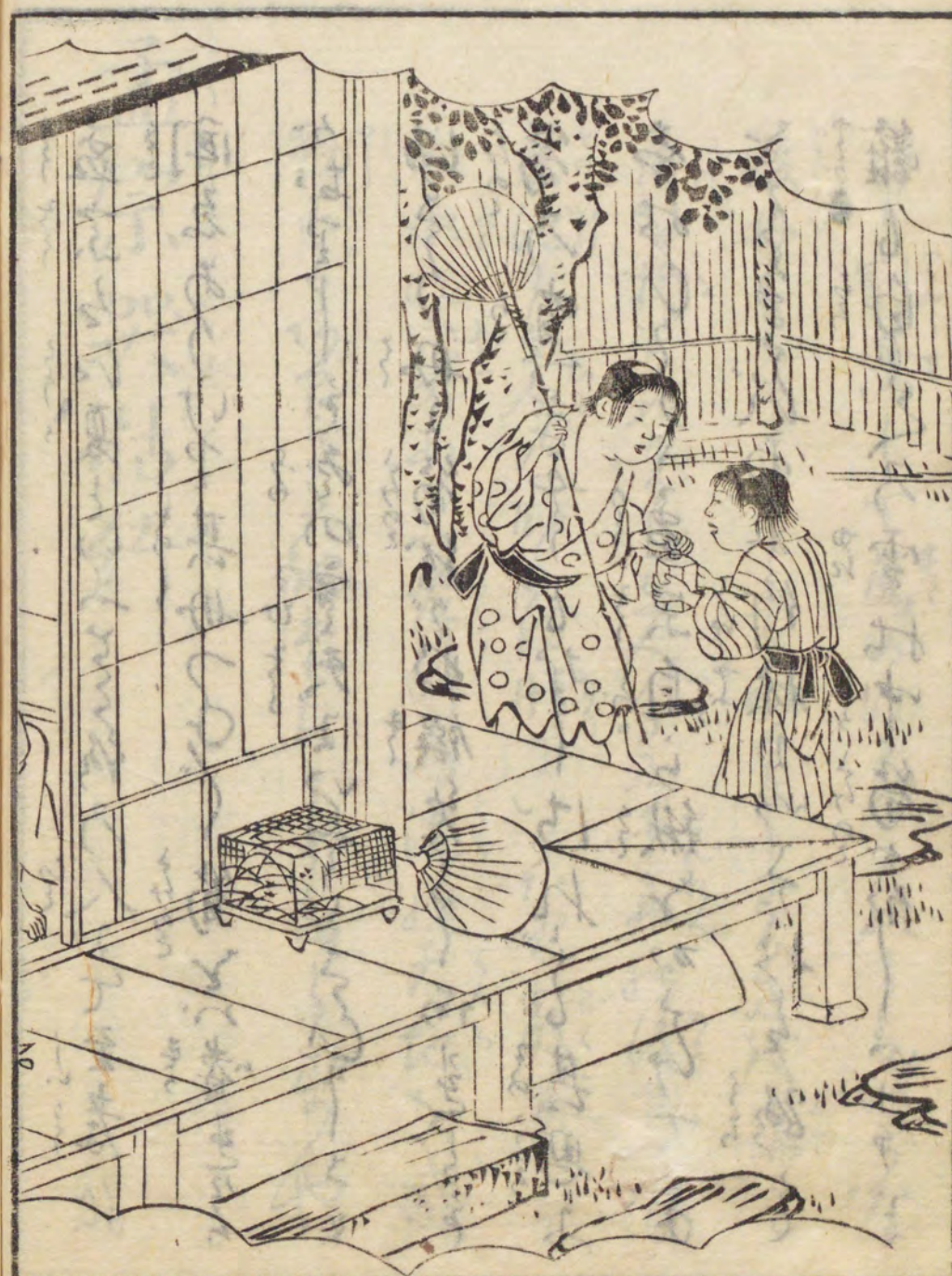
毒酒乃うへ止りてまゝ一々或時
巖より海も汀も一めん堅氷を
はりてふふれ朱母活魚が喫ふを
の言を言ひ出りて中国大國
へ海を遠く大坂を難喉場へ人々
よれ京都を根本町へ活鯉へいふ
ゆゑやうな自由をてははははは
かりに王祥へかくも魚がうへが

あつたがまぬ雪乃巖氷れを
ゆゑ池へ走り行きて隨即不衣試解て
赤裸なる氷の上へ臥せりて
後につて死てりまゝ兄弟つれづれ
のうゑに起りて小法師を裂く
若しとて煮りて魚を何れその兄弟
の念力巖を徹し氷が裂き人々と
と一口づつ干奉叔中へ賞ふと持て返

つる割惠して薦めけふれうをいふを
 後冊もギョウとてあやうきを改悔と
 角と折られるとある今ふ千年は後までも
 甚此う人乃臥る形といふなる處をみて
 も氷に穴のあつ孝の乃流れ天地を感
 動するつるうにまゐりあうや

孟宗哭枯竹

孟宗は夏といふと秋乃人して至孝は
 聞えありけり其母つゞ竹とて嗜むる
 かおるゝも冬の寒天といふとさびさび
 はさる母竹が解けぬとて何とせん
 竹乃有るさやもなけられども其思ふ
 あれびぐゝ孟宗自ら糞をかへて
 とるるさばあふ竹林といふれど路を
 離も白く雪は中竹が解けいナアと



梅が枝より花乃柄ねいしゆめ淋うけ
哀歎い眼もろ竹や枯竹の間ふ
まや肥たくしに省み多と黄さし
うに二本かこあやこは養う
うはひいあやふさるるびふや
母や供えらるる孝乃感ふは
ふても何事あり後仕へる司官や
官ふ至るるや

郭巨尚埋兒

後漢乃世に郭巨といふ人家甚貧しく
老母と養ひに歳乃一子あり妻と四に別
夕に獨りふさるる母も母ふる月也
させまゝと夫婦心と碑をち抛ち孝
と盡しけり此母はひきすに孫の羸弱
ふ便り二人かくて我が食と減らして孫

ふちくけふとてふたまたまぬと夫婦
相謀してちとんをいふふか
孝も疎うなれ及理あま典鋪うら
教も平日あれど今ハ素ふ一ふとふ
埋ううんといふ書あもあふむら子
ういふといふ所とねをあーを
とらに坑と堀と二尺餘忽ち黄金
一金とやりおせせ黄金の金なりと

とて金ハ輔と固ト字にて量りたる
金ふもせよ量るもせよ一尺四方もある印
子金とほらなり天湯孝子郭臣といふ
六字紙をけけり孝乃感良あふく
金一たふと一

丁蘭曾刻木

丁蘭といふ人玉て孝のうて父母亡きくも

四十一

如何いかに今時人いまのひと不學まなばな古風ふるふう倍ふた

なをまら一ツとあけていそく見ようかん

父母おや忌日いひまち小齋こしょうをむかふとて六む何なんあり

事^ニハ^ニ服^スヲ^シ不^レ安^ニ聞^ク樂^ム不^レ樂^ニ食^ム旨^ニ不^レ甘^ニ

あまをくちへ乃淳朴おんちくの風俗ふうぞくハ父母ふぼと妻あかと

下をきんぐろふ亭戒^{きんぐろ}ろくをよむ衣服^{いふく}し

くも服きくわんむう又またくわんくわんを歌う曲く

三弦此類と申てもおそろふは是自

らろ情あり毎年弘暦月々も同じこ



仏乃道を精進といふハ勇猛精進といふ
 佛道修りおとろをなくさるべき勢ひ
 事こそ肉くらぬ斗ふは決して
 さふこなる淳朴の人れ如くあらずも
 せめて其まのなりともなれはかきあ
 みをなすかまぐ齋といふは肉くらぬ
 なるを云ふあはれ父母は忌日に齋せぬと
 してさうくを齋するふといつた肉

ちりといふて甚他はうらむじやうに
 酒場の人ぞる旨い物とてうらむ戯場
 へせうり妓館へ赴くを饗應まふ行ふ
 世ふいやは金得ちがひもすこつたふと
 うらむかんぐさ

勿以不孝頭 狂戴人間屋
 勿以不孝身 狂著人衣服

勿以不孝口

枉食人五穀

父母不孝なる者ハ兄弟も不和あるべ
かり兄弟も不和あるやハ外人や
明友もつとけいもつとけいも老
我より一つても年長く居るれハ何
もけい教へぬべしあはれもけい
つねたてさめぐりもけいけい

不孝をこそとてけいけい
人下しとしふもあはれや
屋より人の衣服若人の穀を食ふ
こそいかにけいけい
あやあやけいけい
うしよき天りあはれ世ふた
みまけいけいけい
さる屋あ人や

天地雖廣大 不容忤逆族

天地乃ひろくといふもあつくおそろ
るをそのまゝに天地へも忤逆の
族としておそれる者より始る天地乃通ず
忤逆ふまのハ容れあうおれと人間に
殺さるゝあゝとたゝとみとみとあ
ふがらるゝ宇宙といふなく道なりてハ

早々悔前非 莫待鬼神録

すゝとやせられぬあり甚道とらハ何
あやうやうせども父母孝行ハハト
すけあを法乃本あり教の由て生る所ニ
又至徳要道とて乃のかん人あかなるや
過てハ改るハ悔るることなつれとあふわれ
人もさすけおしみにせざるこなしと云

力



卷之五

五十五



こゝにあきて喧嘩のいひがき如く
一死と意はしてその勢に改め
さなりこれ大なるむづろと朝に道
中て夕ふ死をも可く今死る時
もくも改むるは改めざるは過
ちて是を改むは誰か點乃うも人
あやのしむ計ははるむと改むる
も愚くそ神明の録にあらざる事
也

過と云へば悔み改むる録乃
つけくはふかか次ソレニ人
悔みいつともなれとて天の心
ふてと云ふはへいくまのあや
過る改むる是と過といふとあ
ぢなり改むる過るはあやと云
ふもくもあやといふはくもく
たもむくはれなり完賢

天明 見世波式

乙巳 此年と續て教訓今ばりといふ年といふに
新刊 今はうりとよみて此年といふに
○あつたふいふ見せばやせのつぎ
おもろあうき孝のすゑを

寛政

京都

二条通教町

山平長兵衛

同高倉角

服坂正玄甫

同

戊午

正月 書林

教町市地

淡海治良吉

寺町二条

小林重玄清

梓

求板

手島先生教訓書目次

やうなひ州	全二冊	時代のおぼしめ	全二冊
日 二編	全二冊	幼少のしるし	全二冊
かゝる州	全二冊	案山子州	全二冊
月乃あうり	全二冊	民の繁栄	全二冊
あのもろき	全二冊	夜活莊子	全二冊
素下まゝ安んず	全三冊	幼少小信	全二冊
閑運出世傳授	全二冊	公教をそそ	全二冊
長命ふかる傳授	全二冊	かゝるふかる傳授	全二冊
老ふふかる傳授	全二冊	福相ふかる傳授	全二冊
館のなるふの傳授	全二冊	和合長久の傳授	全二冊

八用心様抄

全二冊

安東問答

全一冊

立身始末の鑑

全二冊

所代の思

全一冊

撫育州

全二冊

鶴鶴問答

全一冊

丹堂遠稿

全一冊

教訓あめ州

物編十冊

二編十冊

三編十冊

四編十冊

又編十冊

鬼は介

全一冊

片流隨筆

全一冊

福神教訓袋

全八冊

寺子大衆教訓鑑

全一冊

教訓物書物類製本所

三條通市幸町角

京都書林

吉野屋仁吉書板

諸書物類製本所

京都書林津逮書

三條通市幸町角

大谷

吉野屋仁吉書板

又用心核料	全二冊	安東問答	全一冊
立身始末の證	全二冊	河代の思	全一冊
撫育州	全二冊	鶴鶴問答	全一冊
教訓の要所	初編 十冊	丹堂遠稿	全一冊
	二編 十冊	鬼は介	全一冊
	三編 十冊	片流隨筆	全一冊
	四編 十冊	福神教訓袋	全二冊
	又編 十冊	寺子大學教訓證	全一冊

右は本教訓の要所とて、各々集めて、
 本館の蔵書と爲す。後編は、
 二編の爲す。又編は、
 三編の爲す。又編は、

教訓物書物類製本所

京都書林

三條通市町角

右野屋仁吉書板

諸書物類製本所

京都書林津逮書

三條通市町角

大谷 右野屋仁

右野屋仁吉書板

